

令和 6 年度自己点検評価報告書

令和 7 年 3 月 25 日
自己点検評価委員会

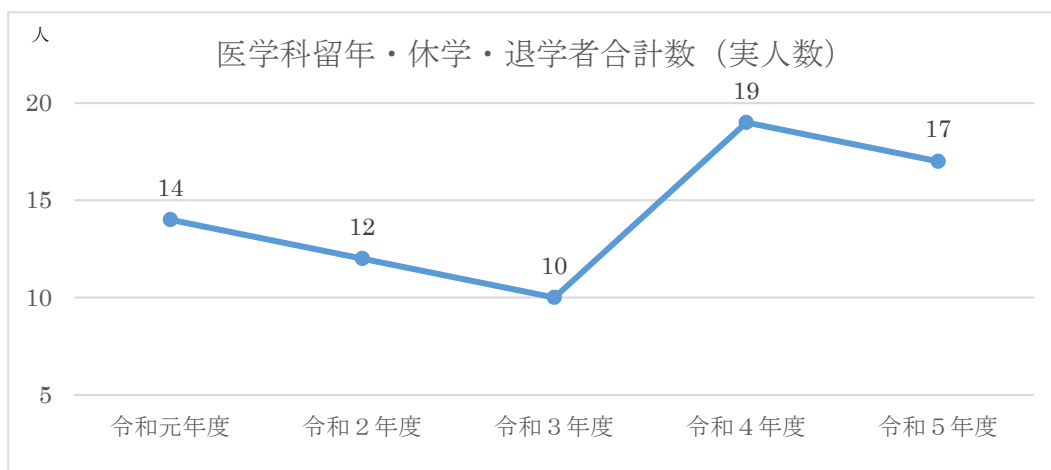
この報告書は、令和6年度における教育の質保証に係る自己点検評価等の結果についてとりまとめたものである。

1. 医学部の状況

1-1. 医学部医学科の状況

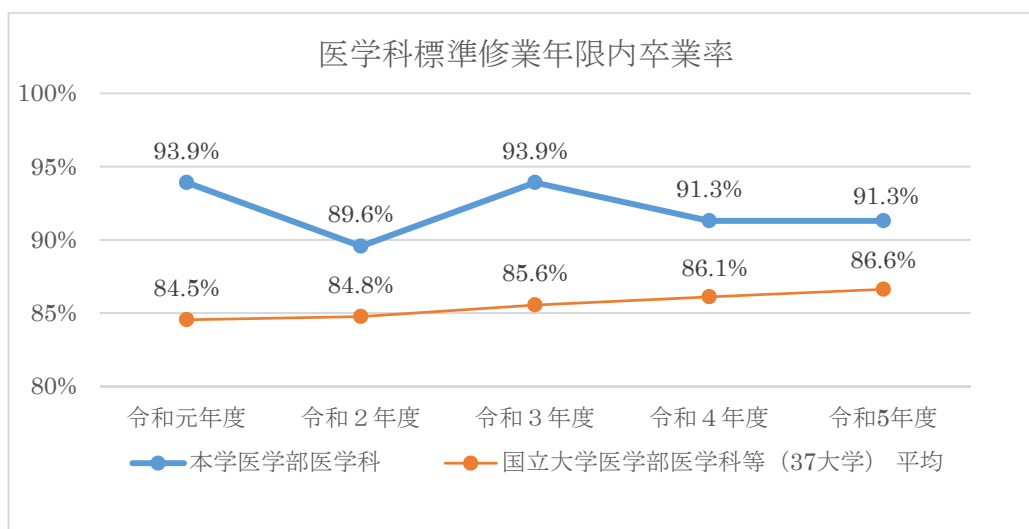
(1) 留年・休学・退学者数について

令和5年度の留年・休学・退学者の全学年での合計（実人数）は、17人であり、昨年度より減少した。



(2) 標準修業年限内卒業率について¹

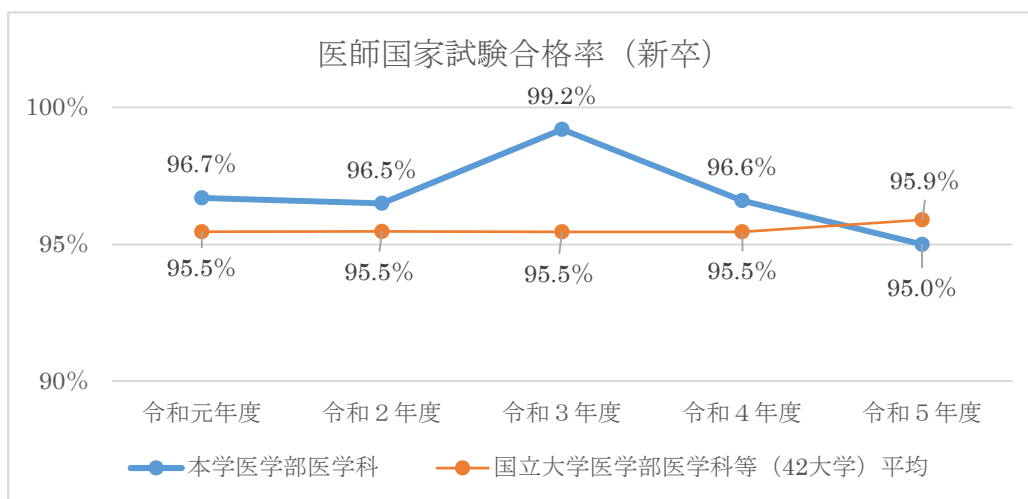
令和5年度卒業生の標準修業年限内卒業率は、91.3%（国立大学医学部医学科等37大学中9位）となっており、良好な水準を維持している。



¹ 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>) を元に本学で作成した。なお、国立大学医学部医学科は42大学あるが、欠損値のあった大学は除いている。なお、欠損値のあった大学は、年度により異なることから国立大学医学部医学科等（37大学）平均については、昨年度の本報告書と若干異なっている年度がある。

(3) 国家試験（医師）の状況について

医師国家試験の状況については、令和5年度の新卒では、合格率95.0%（国立大学医学部医学科等42大学中29位）となり、国立大学医学部医学科等42大学の平均を下回った。



(4) コンピテンシー（学修到達目標）について

コンピテンシー（学修到達目標）の到達度及び満足度について、例年どおり令和6年度の6年生について自己評価アンケートを実施した（有効回答率100%）。5つのディプロマ・ポリシーに対し32のコンピテンシーを設定しているが、到達度については、ほとんどのコンピテンシーについて前年度を下回る結果となった。満足度についても、多くのコンピテンシーが前年度を下回る傾向にあるものの、「豊かな人間性に基づいた行動ができる」、「高い倫理性に基づいた行動ができる」及び「患者やその家族、医療スタッフとコミュニケーションが取れる」については、平成29年度の調査開始以来、過去最高を記録するなど、ディプロマ・ポリシー「豊かな人間性と高い倫理観」に関するコンピテンシーにおいて高い満足度を示すものがみられた。

(5) 入学生・卒業生アンケートについて

令和6年度入学生について、例年どおり志望動機やオープンキャンパスの参加理由等について確認するアンケートを実施した。回答内容を分析することにより、今後の入学試験の改善及び入試広報の参考としている。

卒業生アンケートについては、同窓会の協力を得て実施している。回答率は、前年度を下回った（有効回答率5.9%）。回答は少数であったが、本学で受けた教育プログラムの満足度について設問したところ「満足」又は「まあ満足」と回答した者の割合は、100%であり、また、就労状況についても、ほとんどが大学教員（研究者）又は病院等の勤務医として勤務しており、良好な状況であった。

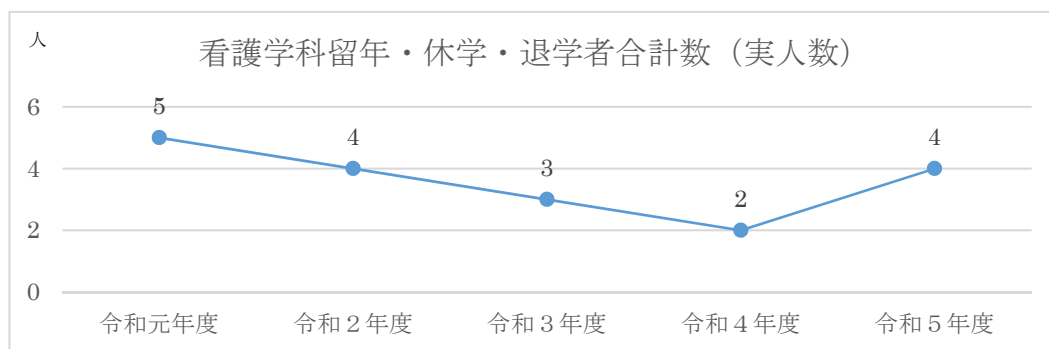
(6) 委員会による自己点検・評価の状況

医学科カリキュラム評価委員会において、カリキュラムについて自己点検・評価を行った。

1－2. 医学部看護学科の状況

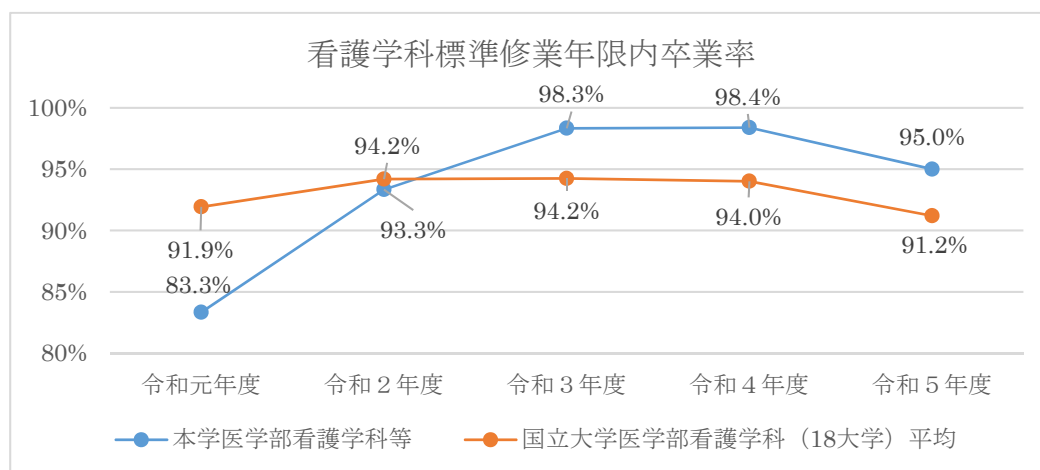
(1) 留年・休学・退学者数について

留年・休学・退学者の全学年での合計（実人数）は、近年減少傾向となっていたが、令和5年度は4人と若干増加した。



(2) 標準修業年限内卒業率について²

標準修業年限内卒業率については、近年他の国立大学と比較すると若干低迷した年度もあったが、令和5年度卒業生については、95.0%（国立大学医学部看護学科等18大学中4位）となり良好な状況であった。

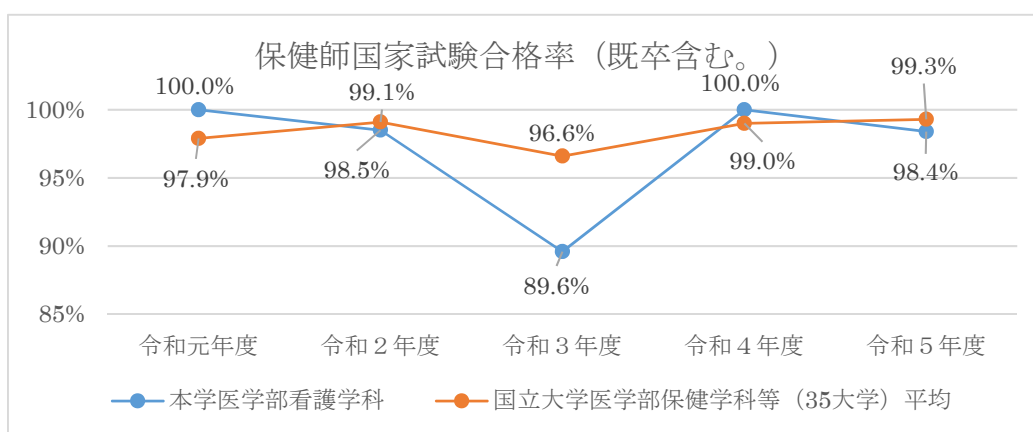
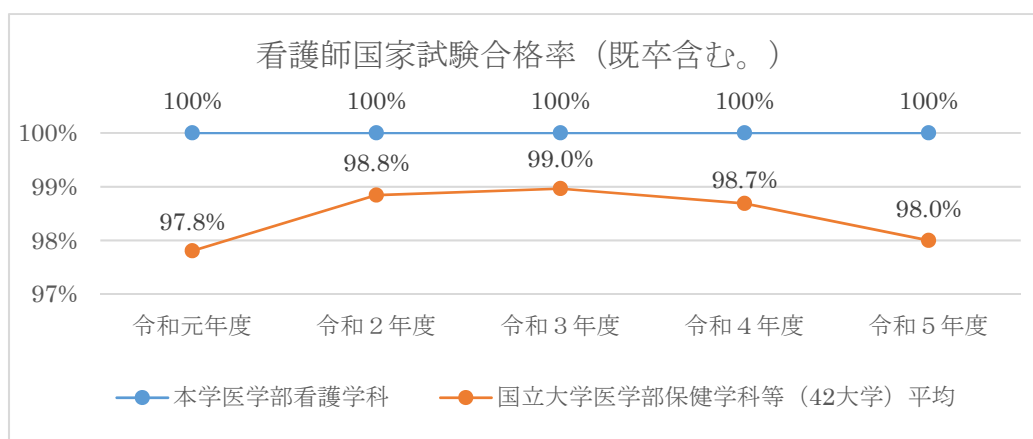


(3) 国家試験（看護師・保健師）の状況について

看護師国家試験（既卒含む。）の状況については、令和5年度も合格率100%を維持している。ちなみに、本学は、7年連続合格率100%であり、7年連続100%は国立大学の中でも本学を含めて2大学のみである。また、保

² 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>) を元に本学で作成した。なお、看護系養成課程以外のコースも持つ保健学科等は除いている。

健師国家試験（既卒含む。）³の状況については、令和5年度は国立大学医学部保健学科等（35大学）の平均を若干下回るものの、新卒者の合格率は、100%であり良好な状況を維持している。



(4) 卒業時の学修成果について

コンピテンシー（学修到達目標）の到達度と満足度について、昨年度に引き続き、令和6年度の4年生について自己評価アンケートを実施した（有効回答率 60.9%）。今回の調査は、まだ2年目であるがディプロマ・ポリシーにおける「豊かな人間性と高い倫理観」に関する多くのコンピテンシーにおいて到達度・満足度ともに低下がみられた一方で、「科学的探究心」に関する多くのコンピテンシーの到達度において、向上がみられた。

(5) 入学生・卒業生アンケートについて

令和6年度入学生について、例年どおり志望動機やオープンキャンパスの参加理由等について確認するアンケートを実施した。回答内容を分析することにより、今後の入学試験の改善及び入試広報の参考としている。

令和元年度卒業生について、同窓会の協力を得てアンケートを実施した（有効回答率 47.2%）。本学で受けた教育プログラムの満足度について設問し

³ 国立大学医学部保健学科等は、42大学あるが保健師養成課程が大学院にある大学を除いて保健師国家試験合格率の統計資料を作成している。

たところ「満足」又は「まあ満足」と回答した者の割合は、94.1%であった。また、就労状況についても、ほとんどが、医療職として病院、保健所等の常勤職員として勤務しており、良好な状況であった。

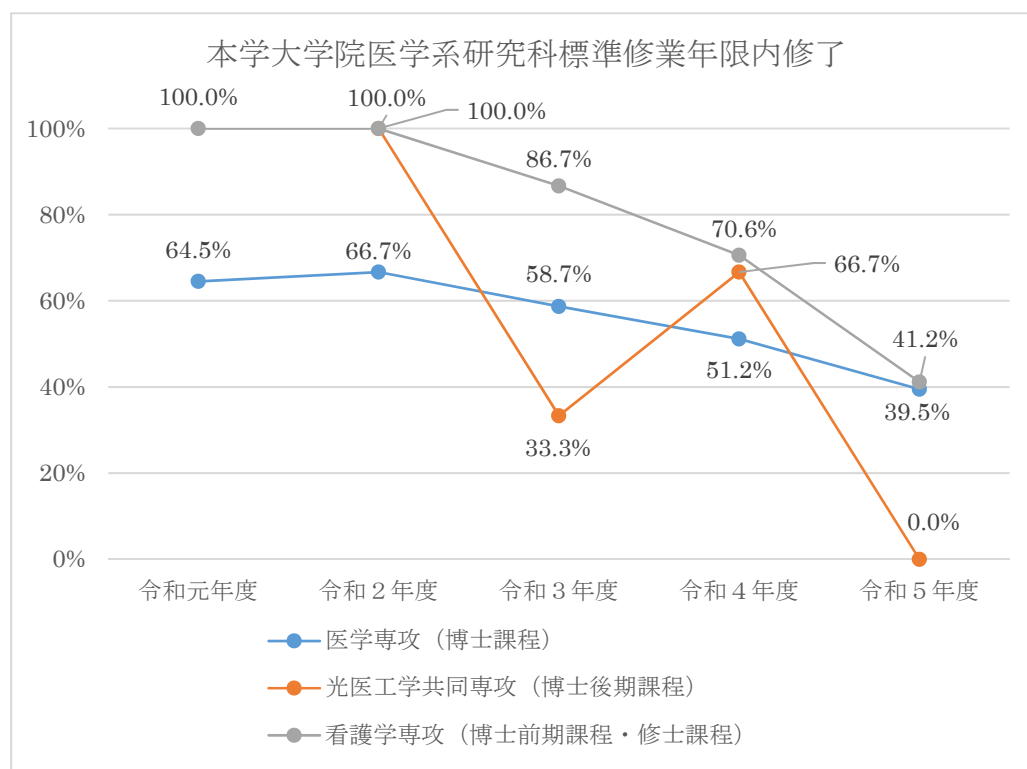
(6) 委員会による自己点検・評価の状況

看護学科カリキュラム評価委員会において、カリキュラムの実施状況等について自己点検・評価を行った。

2. 大学院医学系研究科の状況

(1) 標準修業年限内修了率について⁴

大学院医学系研究科の標準修業年限内修了率は、以下のとおりであった。令和3年度から令和5年度は、低下しているが、長期履修学生⁵が修了すれば、例年並みの水準となるものと思われる。

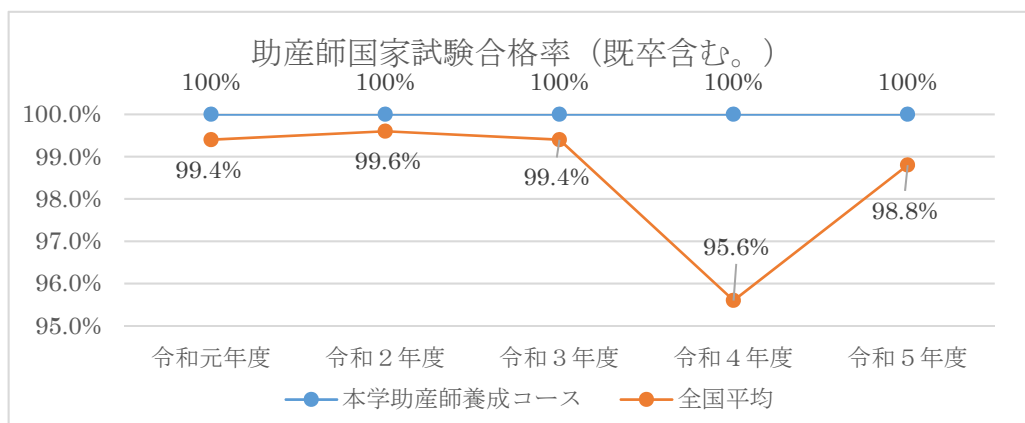


⁴文部科学省の「成果を中心とする実績状況」の調査の定義に準じて算出している。また、光医工学共同専攻（博士後期課程）は、平成30年度新設のため、令和2年度に初めて修了生を輩出している。看護学専攻は、令和4年度に修士課程を博士前期課程に改組している。

⁵職業を有している等の理由により、標準修業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望し、その計画的履修を認められた学生

(2) 国家試験（助産師）の状況について

令和5年度の大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）助産師養成コース修了生の助産師国家試験の状況については、平成27年度の本コース開設以来、合格率100%を維持している。



(3) 大学機関別認証評価で指摘された改善を要する点について

令和3年度に受審した大学機関別認証評価において指摘された大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）の入学定員の超過については、基準を満たしたことを確認し、大学機関別認証評価の実施機関である大学改革支援・学位授与機構に報告した。

(4) 修了生アンケートについて

修了生アンケートについては、令和2年度修了生について実施した（医学専攻（博士課程）：回収率32.0%、光医工学共同専攻（博士後期課程）：有効回収率33.3%、看護学専攻（修士課程）：回収率53.3%）。

医学専攻（博士課程）修了生へのアンケートについては、本学で受けた教育プログラムの満足度について設問したところ「満足」又は「まあ満足」と回答した者の割合は、100%であった。また、就労状況についても、ほとんどが病院等の勤務医・薬剤師として勤務しており、良好な状況であった。

看護学専攻（修士課程）修了生へのアンケートについては、本学で受けた教育プログラムの満足度について設問したところ「満足」又は「まあ満足」と回答した者の割合は、87.5%であった。また、就労状況についても、ほとんどが大学・専門学校等の教員（研究機関の研究者）又は一般病院・一般企業等に看護師、保健師等として勤務しており、良好な状況であった。

なお、光医工学共同専攻（博士後期課程）修了生へのアンケートについては、回答者が少数であり、個人が特定される恐れがあるため、アンケートの内容は、本報告書には、記載しない。